

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	6
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	女
称号クラス				年齢	16
種族	アーシアン			境遇	渡来
出自 (効果)	放浪者			目標	好奇心

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	8	9	8	24	13	15	9
ボーナス	2	3	2	8	4	5	3
クラス修正	0	0	0	2	2	2	0
他修正				1		0	
能力値	2	3	2	11	6	7	3

HP	48
MP	76
フェイト	6

	装備品	射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	アークスタッフ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手									
頭部	メイジハット					2			
胸部	メイジローブ					3			
補助	虹色の指輪						1		-1
装身具	学術書								
能力値			3	0	2	0	7	8	7
スキル	アーシアン:事故					2	2		
その他	スマートフォン							1	
総計(右)			2	2					
総計(左)					2	7	10	9	6
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 2 d
エネミー識別	11			11	+ 2 d
アイテム鑑定	11			11	+ 2 d
魔術判定	11		2	13	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定	3			3	+ d

所持品	
冒険者セット	
異次元バッグ	
ベルトポーチ	
スマートフォン	
ハイMPポーションx4	
ルビーx8	
ポーションホルダー	
ハイHPポーションx2	
保温瓶	
ミュージックヘッドセット	
精霊のオーブ:火	

現在重量: 16 所持金: 30618 預金・借金:

最大重量: 20

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
アーシアン:事故	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果:	【物理防御力】と【魔法防御力】に+2、また作成時のみ現代アイテムの価格が1%にする							
マジシャンズマイト[5]	5	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果:	魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。							
ファイアボルト[1]	1	6	メジャー	20m	単体	魔法判定	-	
効果:	魔法攻撃2d+10(火)							
ファイアロード[5]	5	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	魔法攻撃+sl*4 (=4)							
コンセントレイション[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	魔術判定+1d							
マジックブラスト[3]	2	3	ムーブ	-	自身	自動成功	-	
効果:	攻撃対象を範囲(SL*2)にする							
マテリアルコンポーネント[1]	1	-	アイテム	-	自身	-	-	
効果:	アイテム効果(魔法攻撃+2d)							
エキスパート[1]	1	3	マイナー	-	自身	自動成功	-	
効果:	魔術判定+1d							
オプティマイズ[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	選択したスキルコスト-2							
プライスダウン[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	現代アイテム購入費*0.1							
エラプション[3]	1	4	セットアップ	-	自身	自動成功	-	
効果:	魔法ダメージ+1d							
マジックフォージ[3]	1	3	DR直前	-	自身	自動成功	シーン1回	
効果:	魔法ダメージ+2d							
イフリートシマー[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	ダメージが入ると命中-1d							
トレーニング:知力[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	知力+3							
マイニング[1]	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果:	宝石の取得1d(シーン終了時,シナリオ1回)							

2021/04/06 誕生  
 パーフェクト・スキルガイド使用キャラクターです。  
 岸田綾の姉、炎属性  
 2021/04/11: コマ絵の髪型を変えました。  
 ●プロフィール (暫定版)  
 私は岸田美亜、中学生。  
 ある日姉妹でゲームを楽しんでいる時だった。  
 視界が一面真っ白になり次に暗転したように意識を失った。

気がつくのと石のように硬い床の上に倒れていた。ベッドに座っていたはずなのに...  
 「おかしいな...何か間違ったか?」  
 聞き捨てならない嫌なセリフを発したのは分厚い本を持ったローブ姿の男だった。  
 「ちょっと! どうゆうことよ!」私は男にくっつかかった。  
 .....

あれから二年。  
 帰る方法も見つからないまま、しばらくは召還士に責任をとってもらい生活を保障して貰っていたが、そろそろ自活しようと冒険者になる。  
 幸い私たちには魔法の才能があったらしい。この二年間色々な勉強や訓練を経て一応の魔法は使えるようになった。  
 私は火属性、妹は風属性。  
 新人冒険者としての生活が始まった。

そんなある日、冒険者ギルドに来ると受付嬢から相談を持ちかけられた。

